

I 英文法革命 2

～全く新しいまさに本物の論理英文法体系の提示～

2、特徴と使い方

《特徴》

- ・ 旧来のように、単語や例文等を「〇〇形」とか「△△型」とかで無味乾燥無関連に羅列するのではなく、現象（英語表現、例文）を化学（科学）的論理的に分析し、組成を体系的に並べて理解の至極容易な順に説明しました（したがいまして、説明用語も実体的に新しく考案命名しました）
- ・ 原子（単語）から分子（句）さらに高分子（節）と複雑高度化していくなかで、分析的視点と総合的視点を駆使して、英語表現構造の統一論理的説明と体系化を完成させました
- ・ 論理体系ですから、図表にまとめることに馴染むので、図表を多用しました
- ・ バカ暗記ではなく、論理的構造や論理体系の理解会得ですから、忘れようもない一生モノの英語文法力、英文解析力、英文読解力、英作文力（日本語から英語への変換力・・・すなわち日本語文の分析力と英文構成力）が身に付きます
- ・ さらには、ことばに関する教科（英現古漢）を統一的に理解・解釈できるようになり、現代文読解力や古文読解力に漢文読解力をも向上させることができます

《使い方》

- ・ 時期的には、中3の夏から高1の初夏頃までに読んでいただきたいもので（それ以前でも読破理解できるなら尚可です）、そうすれば、先手必勝で、有意義で効率のよい高校時代を過ごせるでしょう
（ちなみに、公立中学出身の方々は、中3の夏休みに読めれば最上ですが、遅くとも高校合格発表の翌日から読み始めるのが理想でしょうし、私立中学の方々は中1・中2の夏休みあたりが適切ではないでしょうか・・・このように、公立と私立では1年半以上の開きがあることに注意してください・・・公立の方々は頑張って溝を埋め距離を縮めてください）
- ・ 途中から読むとか、拾い読みとかはせずに、初めから最後まで何度も読破する気概で読み始めてください
- ・ あらゆる事項をできるだけ多くの表にまとめてみましたので、ノートに写すなり、コピーするなりして、論理体系の理解と整理や暗記等に活用してくだ

さい

- 始めの50ページぐらいは、簡単すぎたり、新しい用語がたくさん出てきたり、しつこくてウザかったり、辛くタイヘンだったり、意味がないように思われるかもしれませんが、そこを乗り越えれば、論理の草原に出てどんどんわかって繋がって面白くなってきますので我慢して読破してください（何しろ、人生・将来が掛かっているのですから）

補蛇足《英語長文読解を克服するための一戦略の提案》

★大学受験を「自己MAX」で迎え、しかも大学受験英語に関し短期省力で自己最高点に到達したいのなら、以下の方策を試してみてもはどうでしょうか

- まずは、本書「英語案内」で、文法論理体系を学び、言葉による思考伝達の論理的構造やしくみを完全に理解してください
- 次は、基礎的な英文法問題集を軽く通して（流して）みてください
- ここで、過去問レベルの英文法問題集を始めれば、最強コースメニューです（この前後から、受験単語集の暗記をはじめましょう）
- その次は、現代文の基礎的な問題集で、「論理的読解力」を身に付けてください
- 次ぎが要ですが、「現代文用語集」で論理的語彙力をつけてください（ついでに、ここで現代文のセンターレベル以上の問題集をやれば最良です）
- ここで、受験科目としての要否にかかわらず、漢文の問題集をやると論理的思考力が相当深まり高まることを付け加えておきます（フルマラソンの好タイムでの完走をめざす場合、走り込みだけではダメで、筋トレや食生活改善もあるでしょ・・・まさに、「急がば回れ」ですね）
- さらに、次に、古文法や古文問題集をやれば尚可です
- ようやく、ここらあたりで、英語長文読解に手を出しましょうかという具合ですが、不安・不審・不満でいっぱいかもしれないね（このころに、受験単語集の7割程度が終わっていたら、まさに本物、根性メニューですが・・・）

すなわち、英語長文は、論理読解の一種なのですから、母語において論理的思考力や論理的読解力があやふやなままで、しかも論理的語彙力が未熟な段階で、英語長文読解（異国語のある程度のレベルの文章の理解）に手を出しても時間・気力・体力の無駄で、《省力で「自己MAX」に到達》という趣旨に合わないのです（現代文や古典の学習期間中は、過去問レベルの英文法問題集を反復練習したり、受験単語集の暗記をしたりすることをお勧めします）

以上のようなメニューで、英文法力を基板に、現代文読解力や漢文読解力をしっかりつけていけば、英語長文読解力なんて簡単に短期に身に付きます
ですから、とにかく、むやみやたらに早く英語長文に手を出さず、基礎体力をつけてから、満を持してはじめてください
遅きに失するつもりくらいで大丈夫です
そうすれば、すぐに面白いように読める時期がきますよ
何度も繰り返しますが、優良な人材となるためには、いわゆる国語力・（漢文力を含む）論理的読解力を「自己MAX」にしておくことです

まとめますと、「言葉による思考伝達表現構造の理解」→「母語による論理的読解力」→「母語の語彙力」→「英語長文」の順で仕上げていくのが、自然な流れのはずです（最後に論文作成力です）

文法力・論理力・読解力・語彙力もないのに、英語長文の授業のなかで文法や語彙を詰め込むのは、いきなり試合に出て、試合中に筋トレをはじめたりルールブックを読んだり、手術中に医学書を読むようなものではないでしょうか
実践前に、最低限の「ルール」や「基礎知識」等は仕上げておくべきでしょう

そうです、英語長文の授業のなかに何でもかんでもほうりこんでこった煮にする邪道がまかり通る不条理な時代を終わらせて、本書のような論理英文法を一つの科目とし、高校英語の入門科目として確立させれば、「勉強時間・期間の省力化」「語学力躍進」「余剰時間で社会・現場・地方研修」「優良人材量産」「強い日本」と流れていくと思うのですが、瓢箪駒だと桶屋が笑っていますかね

本書『英語案内』は、始めから何度も何度も読んで、英語の構造を得心会得して、仲間と議論して、もっと理解を深めて、さらにはさらなる精神的成長発展を獲得してもらうための契機書です

そして、本書『英語案内』で英文法の勉強時間を省力化し、余った時間を、たとえ理系であっても、現代文問題集や現代文用語集や漢文問題集に充ててください
もちろん、これは、論理的思考力にたけて、日本の将来を担い社会貢献できる何廻りもスケールの大きな人材となるためです（日本文だけでなく英文でも、論理的文章の読める書ける文系力を装備した研究者・技術者になるためです）

以上、《英語長文読解を克服するための拙なる一戦略の提案》でした